

令和2年度第1回茨城県立病院運営評価委員会の開催結果

日時：令和2年10月19日（月）17：00～19：00

場所：茨城県庁9階901会議室

【出席委員】

城西大学教授	伊関 友伸 氏
公認会計士	清水 至 氏
茨城県医師会長	鈴木 邦彦 氏（委員長）
群馬県立小児医療センター院長	外松 学 氏
茨城県精神科病院協会会長	高沢 彰 氏
筑波大学附属病院長	原 晃 氏
茨城県総合健診協会顧問（県医療改革担当顧問）	山口 巖 氏
日製日立総合病院長	渡辺 泰徳 氏

【議事内容・意見等】

議事内容	主な意見
令和元年度第2回茨城県立病院運営評価委員会の開催結果について	<ul style="list-style-type: none"> 公的病院の再編統合については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、感染症専門医の配置や個室の整備などの機能向上を図ること、また、拠点病院を2つは設置して、1病院で院内感染が起きても他病院で対応できるようにしておくことなどが必要。県立病院の建替えは、こうしたことを意識し、医療提供体制のあり方を模索しながら検討する必要がある。
平成31年度（令和元年度）決算について	<ul style="list-style-type: none"> 決算については、当初予算に対して、どれだけ増減したのかという視点で分析し、PDCAサイクルを機能させることが必要。
茨城県病院事業中期計画（H30～R5）の中間評価及び今後の取組みについて	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価については、概ね計画どおりと評価されていても、実績が目標値より低いものがある。きちんと状況や原因を分析した上で評価すべき。 睡眠医療クリニックの機能は民間でも対応可能と思う。民間ではできない高度医療等に特化することで採算がよくなるという視点を念頭において欲しい。
茨城県病院事業中期計画（H30～R5）の見直しについて	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の見直しで、感染症対応について盛り込むことはよい。 中央病院は、患者を集めるための営業活動や診療単価の向上等により収益改善に努めるべき。